

Q 元村地域に交番所必要

A 村と自治会との連携で



山谷 仁 議員
(新志会)



▲大型団地開発が進む元村地域

Q1 元村地域(元村9自治会)には村の人口の約三分の一、17,000人が住んでおり、近年、特に交通量も増しております。また、滝沢小・中学校1,300人の児童・生徒が通学しております。
昨年より牧野林地区に新しい大型団地も開発されていることから、住民の安心・安全を確保する為この地域の中心部に交番所を設置して欲しいと元村9自治会より連名で要望されております。今後、村としても自治会・住民と連携して要望していく考えがあるか伺います。

A1 本村における地域住民からの交番所設置要望は、元村地域のほか、IGR滝沢駅付近・IGR菓子駅付近への新設又は移設要望があります。
また、滝沢小・中学校区につきましては、昨年「滝沢小・中学校区子供まもり会」が発足され、地域住民が一丸となって活動をしていただいておりますことから、村・地域・自治会と連携して地域交番所設置に向けて各種機会を捉え、粘り強い要望をしてまいりたいと考えております。

Q2 消防団員の確保に期待する
消防団員の確保について、村当局・各分団でも努力をいただいているが、苦勞されていると聞きます。
火事・地震・水害等における消火・誘導・救助など何かにつけて、村内各消防団にはお世話をいただくことに村民は期待しております。
消防演習等広く村民の目に触れるよう、広報に力を入れ、また待遇面の向上など、様々な方策で団員の確保ができるよう期待をしますが、村当局ではどのように考えているか伺います。

A2 消防団の定数を420名に決定しております。その後の努力により減少傾向に歯止めがかかり、現在374名まで増えております。
しかし、団員のサラリーマン化が進み、日中の火事等に出動できる団員の確保が困難な状況となっています。村としては村民の期待に応える団員確保に向け村全体で対応してまいります。

村政を問う 会派代表質問(新志会)

Q 期待する新年度予算は

A 地域活性化の予算編成



▲住民に信頼される行政を目指して

Q1 特別会計を含む予算総額は、前年対比11億円減であるが、地域経済に影響しないか伺います。
A1 影響はないと思います。
Q2 介護保険料の引上げが予定されているが、他に料金引上げはあるか。また、それらの延期はできないか伺います。

A2 学校給食費、し尿処理・浄化槽汚泥の手数料、公共施設使用料の一部を、引上げ予定です。
Q3 不況の中で国民健康保険に2億円の基金は必要か。国民健康保険税は県内一高いが引下げるべきではないか伺います。
A3 検討します。

Q4 雇用対策のために大規模修繕事業等は、可能な限り工事発注するべきではないか。
A4 村内企業に対する工事発注等を可能な限り優先的・積極的に行い、村内企業の活性化や雇用の維持・確保を図ります。
Q5 集中改革プランの進捗は、25年には村債残高が130億円を下まわる予定ですが、毎年の返済額が問題ではないか。
Q6 村の財政見通しはどうか

A5 公債費の負担軽減として、民間資金による借換え等、手法や効果について見極めた。元金償還と新規起債発行のバランスを考慮し安定的運用に努めます。
Q6 総合計画の評価について伺います。
A6 各分野とも着実に進んでいます。

Q7 政策実行の為の予算配分は充分であったといえるか。村の重点施策への予算配分は過去3年間、2%台であった。近隣自治体は農業費だけでも10%程の予算配分をしているが、産業振興を重点施策とする計画において、現状をいかに捉えているか伺います。
A7 社会情勢や国の行財政改革により、厳しい財政環境にあります。全体の予算編成を考慮し、十分とは言えないまでも、適切な予算措置に努めます。



山本 博 議員